

平成 29 年 12 月吉日

各 位

(公財)南方熊楠記念館

館長 谷脇 幹雄

## 南方熊楠翁生誕 150 周年記念事業

### 「南方熊楠翁の貝類コレクション」展開催記念講演会について

#### 記

開催日時 平成 30 年 2 月 11 日 午後 1 時 30 分～

開催場所 南方熊楠記念館 本館 1F 多目的室

講演名 「私と貝」

講演者 湊 宏

日本貝類学会評議員

平成 26 年度和歌山県文化功労賞受賞

公益財団法人南方熊楠記念館 評議員

入 場 料 無料 (但し入館料大人 500 円、小人 300 円必要)

お問い合わせ

南方熊楠記念館 谷脇、山中

0739-42-2872

みなと ひろし  
湊 宏

## ○業績および経歴

昭和14年に白浜町に生まれる。湊さんは子どもの頃、海の近くに住み、海の貝に魅せられたが、両親の転勤で山間の村（上富田町）へ引越した。海の貝と離れ落ち込んだが、母親から「カタツムリは海の貝が進化したもの。陸にも貝はあるよ」と教えられた。「目を凝らせば見たことのないの、驚くほど色鮮やかなのとわんさかいます。たちまち夢中になりました」と語る。大学では西洋史を専攻し、卒業後、社会科の教員に。県立南紀高校や熊野高校で勤務し、そのかたわらで、陸産貝類(カタツムリ)の研究に励んだ。「好きな旅行をしながら調査しよう」という軽い気持ちでスタートした。夏休みや冬休み、春の休みには仲間と、時には単独で夜行列車などを乗り継いで調査に出かけた。47都道府県に足を踏み入れ、何度も訪ねた場所も数限りない。また、1ヶ月に一本のペースで論文を書き続け、平成6年に京都大学より博士(理学)学位を授与された。後に、田辺工業高等学校長、日高高等学校長となり、平成11年に同校を定年退職した後は、一層本格的に研究に取り組み、これまでに103種類の新種を発見、600編あまりの論文を発表してきた。カタツムリなど陸産貝類は国内に800種いるとされ、その一割以上の名付け親になったことになる。「山はもちろん、時には洞窟の中まで、奥へ奥へと進み、地べたに這いつくばりながらカタツムリを探しています。多少危険なこともあります。僕にとって調査は“宝探し”のようなもの。大変だからこそ、新種を見つけたときの感動がより大きなものになるのです」と湊さんは語る。研究の醍醐味の一つが、新種の命名。世界共通の学名と和名を考えるのが重要な仕事。命名と言え、忘れられないことがある。30年ほど前、小笠原・父島で調査で20日間も何も得られず、途方に暮れていた時、偶然見上げた木に大きさ1cmほどの新種を発見。陽光の中、鮮やかなオリーブ色の殻が輝いていた。当時、闘病中だった



た母の長寿を願い、母の名「末乃」から学名「マンダリナ・スエノエ」と名付けた。また、思いがけない場所で発見した新種は「オモイガケナマイマイ」、初めて見るビロウドマイマイには「ハジメテビロウドマイマイ」と名付けた。湊さんは、「発見者の名前や地名のほか、印象に残るユニークな名前を付けることも。いずれも興味を持って長く愛されるようにと、子どもに名付けるような感覚です」と語る。現在は、日本貝類学会評議員を務め、また、環境省の絶滅の恐れのある野生生物の選定・評価検討会検討委員として尽力、環境省レッドデータブック<陸・淡水産貝類>執筆者としては、初版から始まり、平成17年改定版、さらなる改定版に連続して関わっている。国内で広く陸産貝類研究の第一人者として知られ、全国放送テレビ番組にも出演している。また、和歌山県においては、和歌山県レッドデータブック改訂時に委員として、さらに陸産貝類・淡水産貝類部長として、和歌山県の貴重な陸産貝類・淡水産貝類のリストアップを行った。和歌山県立自然博物館アドバイザーとしても、提案・助言等をし、さらに当館の評議員としても尽力している。主な著書として、「生き生き動物の国 カタツムリ」「日本陸産貝類総目録」等があるほか、「日本産土壌動物一分類のための図解検索一」「改訂新版世界文化生物大図鑑 貝類」等の分担執筆がある。湊さんは、地域住民や来訪者に対する自然教育を通して、自然保護思想の普及、生物の保護にも尽力し、「カタツムリ先生」として親しまれている。

長きにわたり、陸産貝類の研究・調査・保護に尽力してきた功績は誠に多大である。